

平成25年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 NPO法人21世紀水倶楽部		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 阿部恭二・21世紀水倶楽部 （環境新聞社「月刊下水道」編集部 Tel. 03-3357-2301、Fax. 03-3351-1939、 E-mail. abek@kankyo-news.co.jp）
代表者氏名 理事長 亀田泰武		
（他薦の場合）上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
部門名 企業・団体広報部門	事例名 他業界等とのコラボによる研究集会・出前講座	
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい） トイレ業界や排水設備業界から協力を得て、下水道のみならず、トイレや排水設備等他業界とも関連するテーマで研究集会を実施した。また、生活クラブ東京が主催する連続講座に、出前講座として参加し、一般市民である組合員を対象に、地元に着した講演や施設見学会を行った。 ①研究集会「災害時のトイレ確保と下水道の役割」（平成24年7月11日、砂防会館別館） 東日本大震災等大災害時のトイレの状況や災害時のトイレの備えなどについて日本トイレ研究所や国交省、浦安市、東京都、横浜市に報告してもらい、災害時のトイレ確保の考え方や下水道とトイレとの連携のあり方などについて参加者を交えて議論した。 ②連続研究集会「排水設備と取付管の今日的課題」（平成25年1月30日、3月27日、財下水道新技術推進機構） 下水道システムとしての排水設備や取付管等の基準や問題点などについて日本下水道協会、下水道アドバイザー、日本建築設備診断機構に紹介してもらい、下水道、排水設備、排水設備メンテナンス事業者等の参加者を交えて今後の改善の方向性について活発な議論を行った。 ③生活クラブの学校「いのちと水の連続講座」第4回「私たちが流した水はどこへいくのか」座学と施設見学（平成24年8月9～10日、生活クラブ館、森ヶ崎水再生センター等） 生活クラブ東京主催の「いのちと水の連続講座」において、主婦、世田谷区職員、各地の議員、小学生等29名を対象に、家庭等から排水される下水がどこへ行くのか座学でわかりやすく説明するとともに、その流れを実地に公共マス、枝管、幹線、水再生センターをたどりながら見学した。		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>災害時のトイレの研究集会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>出前講座の実地見学</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>排水設備の研究集会</p> </div> </div>		
エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など） 他業界とのコラボにより、他業界に対して下水道の重要性をアピールできたのではないかとと思われる。特に災害時トイレの研究集会では浦安市の講演者等から「トイレは下水道の入口」等の発言があり、トイレ、下水道の両業界からの参加者がそのことを再認識した。また、排水設備の研究集会では、下水道と排水設備の連携の必要性が再認識された。さらに出前講座では、自らが排出した水の行方を知ってもらうことで、一般市民等の下水道に対する認識が深まったのではないかとと思われる。参加者から「使った水をここまできれいにさせていただき、ありがとうございます」「トイレを流す度にありがとうございます」と言うようにしています」などという貴重な感想が得られた。		